

体験型鑑賞教育の研究

— 鑑賞授業「ルネサンスのライバルⅠ ブルネレスキとギベルティ」をもとに —

緒方 信行*

A study on the experiential appreciation education
— By the art appreciation class “The 1st of the rival of the Renaissance :
Brunelleschi and Ghiberti” —

Nobuyuki OGATA

(Received November 29, 2017)



図1 レリーフA ブルネレスキ作



図2 レリーフB ギベルティ作

1 はじめに

「体験型鑑賞教育」とは、教師が提示した鑑賞題材の投げかけに始まり、関連する資料を参考にしながら、対象作品等を見つめ、関わる作家や審査員など具体的主体人物となってその行為の体験を行い、自身の試行を駆使して最終的に判断を下すという過程を通し、さらに、専門家あるいは大人としての教師の意見を聞き、自身の判断をさらに高次に移すことにある。例えば、鑑賞題材「石庭をつくる」の授業¹⁾では、大まかな日本庭園としての石庭の鑑賞思考を行った後に、教具「ミニ石庭セット」をもとに実際に石庭をつくり、その体験をもとに鑑賞をさらに深めていった。このような学習行為からは、子ども達同士の検討会が繰り返りひろげられコミュニケーション能力が高まるとともに、子ども達の自主的な鑑賞への意欲がかき立てられ、次への新たな自発的鑑賞行為へのきっかけをつくることのできた。

今回は題材として「ルネサンスのライバルⅠ ブルネレスキとギベルティ」を掲げ、1401年にイタリアで行われたコンクールをもとに授業を展開していく。

なお、本論とほぼ同時期に出稿している「体験型鑑賞教育の研究—ブルネレスキ作とギベルティ作のレリーフの教材としての価値—」²⁾でも、ブルネレスキ³⁾とギベルティ⁴⁾について述べているが、ここでは、二人のレリーフ作品の鑑賞教育における教具としての価値について述べており、ここでは、二人が闘ったコンクールの審査自体を取り上げ、鑑賞教育における授業としてどのような価値を有するかについて論じている。

2 研究の目的と方法

本研究の目的は、「体験型鑑賞教育」が子ども達に能動的な鑑賞の能力を身に付けさせることと、今後の自発的な鑑賞へと発展する効果を生み出すことなどその有効性を明らかにすることである。さらにそ

* 熊本大学教育学部 美術科

の過程で育まれる副産物的能力を確認することにある。鑑賞授業「石庭をつくる」では、以下の項目等が確認された。

- ① 授業への意欲
- ② 審美眼の育成
- ③ 創造と工夫
- ④ コミュニケーション能力
- ⑤ 次の鑑賞への自主的発展
- ⑥ 体験的真實味

さらに本論では、筆者が開発したオリジナル鑑賞授業「ルネサンスのライバルⅠ ブルネレスキとギベルティ」（以下、「ブルネレスキとギベルティ」と表記）の授業実践をもとに考察を行うこととし、本題材の授業案を掲載した上で、授業中における学習の様子、また学習シートへの記述などの反応から本研究の目的に迫ることとした。ここでは、筆者が本教材を開発した当時の授業展開及びその結果などに加え、新たに実践した山間部の中学校での授業や、模擬的の大学講義として高等学校で開催された学習会にて展開した授業の結果も紹介しながら、本研究の有効性について明らかにして行く。

3 実践研究

鑑賞授業「ブルネレスキとギベルティ」は、13年前の平成16年に筆者が熊本大学教育学部附属中学校で開発し実践発表した授業（以下、緒方授業⁵⁾）である。今回新しく平成28年に南関町立南関中学校の吉田香寿美教諭⁶⁾に本題材による授業実践協力（以下、吉田授業）をお願いした。また、平成29年には熊本県立玉名高等学校の「一日若駒大学⁷⁾」の講師として招かれた際に本題材を実施（以下、緒方高校授業）して検証した。以下、まずは基本的構想である緒方授業の指導案を提示する。

1) 授業の基本的構想（緒方授業）

(1) 題材名

『ルネサンスのライバルⅠ …ブルネレスキとギベルティ』鑑賞（1時間取り扱い）

(2) 題材について

1401年、イタリアルネサンスが始まるという正にその時、サンジョバンニ洗礼堂の門扉をめぐるコンクールがフィレンツェ毛織物組合により開催された。最終選考に残ったのがブルネレスキとギベルティの2人である。どちらの作品も優劣つけがた

いとされたが、栄冠はギベルティに与えられる。勝因は文献によりまちまちで、技術の高さとブロンズ代の安価さによりギベルティという説があれば、2人ともに最優秀で共同制作となったが、ブルネレスキが降りたという説もある。多くの文献を見てもその他の重大で、決定的な要因は見つけれない⁸⁾。

本題材では、時代性やその他の資料を掲げながら、このコンクールを子ども達に再現してもらおうという形で、鑑賞の授業とする。中学校や高校の生徒達に審査員になってもらい改めて評価を下させるが、構成上の観点についても考えさせて、表現の面からも本題材の価値を高めたい。

(3) 指導内容について

まずは直感での評価から始め、次いで、そのころの時代性やテーマ「イサクの犠牲」(p.90参照)などを紹介し、知識を与えた上でコンクールの検証を行う。生徒がどちらに評価を下しても構わない。大切なのは、授業中に得たある程度の情報をもとに「考える」という行為そのものである。

緒方授業の場合、作品評価に関しては、生徒の風景画をもとに相対評価と絶対評価の2つの方法で評価を下す鑑賞授業「あなたも審査員！」⁹⁾を、対象学年の前年度の2学年時に扱った経緯がある。本題材では、テーマや美術的な時代性からの判断に加え、画面構成上の観点からも、作品を審査するという「考える力」を深めさせていく。

鑑賞の展開に関しては、吉川登氏の鑑賞学、「見る」「知る」「考える」の3段階思考¹⁰⁾に、「述べる」という段階を位置付け、4段階としている。第一印象的な私見から入らせ、情報を与えた上で、新たな思考をさせて、自分の考えをしっかりとした意見としてまとめていくという手法をとる。

(4) 学習の展開

図3が、実際の指導案での学習の展開案であるが、まとめると以下のとおりである。

- ① 二つのレリーフの紹介 7'
 - ・実際にあったコンクール
 - ・今日は、コンクールの再検証
- ② 各自および班での初発の評価 3'
 - ・どちらが選ばれただろうか
 - ・実際の審査結果は後ほど
- ③ 情報提供 12'
 - ・なぜ、コンクールが行われたのか
 - ・コンクールの概要

・当時の美術表現の特徴と前後の変遷

- ④ 情報を知った上での途中評価 12'
 - ・班での話し合い
- ⑤ 意見発表 6'
- ⑥ 教師の意見、その後の二人について 10'
 - ・当時の審査結果の発表
 - ・作品を立体的に想像して横から見たら
 - ・感想と最終個人判定

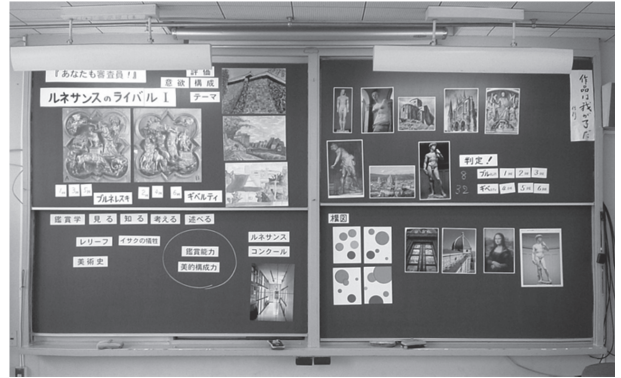


図4 板書

過程	学習活動	教師の指導と支援	<input type="checkbox"/> 基礎技能 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎知識
導入 7'	1)『あなたも審査員！』での評価方法について復習する 2' 2) 本時の学習を知る 5' ▼「見る」	◆ 昨年、風景画をもとに評価の実際を行いました。 ・ 意欲、構成、テーマの面からの評価。 ◆ 今回は 1401 年イタリアで実際に行われたコンクールを検証してもらいます。 ・ 場面など、まずはよく見させたい。 ・ 個人評を学習シートに記入させる。	<input type="checkbox"/> 2年審査時に評価した風景画 他 <input type="checkbox"/> 課題把握 ・ 2レリーフの実物大カラーコピー <input checked="" type="checkbox"/> 見る ・ 学習シート記入
展開 A 15'	3) どちらの作品が選ばれたのか班で考えてみる 3' 4) 情報を知る 12' ▼「知る」 (1) コンクールのテーマなどについて知る (2) 当時の美術表現の特徴を知る (3) っておき情報	◆ さあ、どちらの作品が選ばれたと思いますか？ 班で検討して下さい。 ・ 班による直感的評価での見解を聞く。 ◆ では、当時の審査結果を発表します。 ・ ここでは発表せず、期待を持たせる。 ◇ これからの本格的な審査の前に、どんな情報が欲しいですか？ ・ コンクール自体についての紹介。 ・ 当時の美術表現の特徴について。 ◇ っておき情報です。当時、次のような事実がありました。 ・ 2作品への評価と勝者敗者の言い分。 ・ 画面構成の仕方と留意点について。 ◆ さて、情報を知ったところで、最終審査に移りましょう。あなたの班はどちらに栄冠を与えますか？ ・ 情報を得た上での審査を実施させる。 ◇ では、発表して下さい。 ・ 班としての意見を代表に発表させる。 ◇ さあ、最終判定です。班の結果と違っても構いません。多数決で決定します。 ・ 個人的見解でも多数決をとる。	<input type="checkbox"/> 作品評価 <input checked="" type="checkbox"/> 知る <input type="checkbox"/> コンクール <input type="checkbox"/> レリーフ <input type="checkbox"/> ブルネレスキ <input type="checkbox"/> ギベルティ <input type="checkbox"/> イサクの犠牲 <input type="checkbox"/> ルネサンス <input type="checkbox"/> 美術史 <input checked="" type="checkbox"/> 鑑賞学 ・ 2作品レプリカ ・ VIR: おおまかな美術史の流れ ・ VIR: 当時の頃の表現の流れ ・ 解説シート ・ 構成法カード <input checked="" type="checkbox"/> 考える ・ 学習シート記入 <input type="checkbox"/> 鑑賞能力 ・ 投票カード <input checked="" type="checkbox"/> 述べる
展開 B 18'	5) 班で審査し、発表する 18' ▼「考える」 (1) 班内審査 (2) 意見発表会 3' ▼「述べる」 (3) 最終個人判定	◆ では、当時の審査結果を発表します。 ・ 当時の審査結果と本日の結果の対比 ・ 教師の見解；構成からAorBを推す。 ◆ 最後に彼らのその後を紹介して今日のまとめとします。 ・ 2人と時代のその後を紹介する。(2') ・ 授業の感想を書かせる。(3'、発表2')	<input type="checkbox"/> 美的構成力 ・ 透視図法的立体配置模型 ・ VIR: それからの2人と時代 ・ 学習シート記入
まとめ 10'	6) 当時の審査結果を聞く 3' 7) まとめ 7'		

図3 展開案

(5) 付属する資料等について

① 板書計画

板書は、できるだけ丁寧に美的に配置するように心がけている。授業の終わりの挨拶の時に教師の背後に、本時で学習した1時間分の学習内容が、ちょうど参考書の見開き解説ページのようにまとめてあるように意識している。なお、図4にあるような掲示資料を提示した。

② 学習シート

学習シートは、できるだけ簡潔にして記録に時間を要しないように心がけている。まずは初発の感想を書かせ、グループ全体での欄も取り入れた。班による審査後に再度どちらに決定したかを記入させる欄を用意して、最終的授業の感想を記入する枠を準備した。

備した。

図5のシートの生徒は、最初から最後までBギベルティのレリーフを推しているが、班はAブルネレスキに変更している。

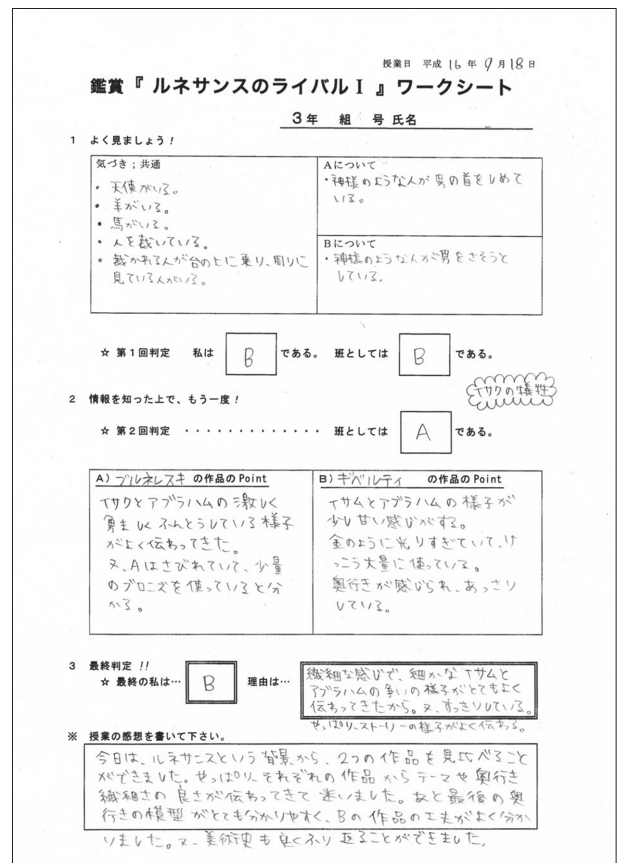


図5 学習シート

③ 解説シート

吉川氏が唱える鑑賞教育の「見る、知る、考える」に倣い、「知る」資料として「解説シート」を準備した。以下の項目と内容を記した資料である。なお、ここでは簡潔にまとめ紹介する。

a) コンクールの開催理由；10年おきにフィレン

- ツェで起きるペストの流行を治めるために実施。
- b) コンクールのルール；旧約聖書創世記22章「イサクの犠牲」を主題とし、候補者にはブロンズ板4枚が与えられた。
- c) 「イサクの犠牲」について；100歳のアブラハムはやっと子イサクに恵まれるが、神からその子を生け贄に捧げよとお告げがある。アブラハムが正に刃を向けようとした瞬間、忠誠さを信じた神は御使いに止めさせる。
- d) 審査の結果；審査は審査員そして市民の間でも真っ二つに意見が分かれた。結果については今も曖昧なところがある。
- e) 作者紹介；最終選考の2人は共に20代前半であり、彫金師などとしての技量が卓越であった。

④ VTR資料

生徒たちに、ギリシア時代からルネサンスまでの彫刻や絵画、建築等の美術史的表現の展開を紹介するビデオと、ブルネレスキとギベルティの「二人のその後」と題したビデオの2本を用意した。

「二人のその後」の内容はまとめると以下のとおりである。

- a) コンクールのあと2人はそれぞれの道を歩き、勝者とされるギベルティは、洗礼堂の門のレリーフづくりに励んで、コンクールの第2門に次いで第3門の制作も引き受け、その扉は『黄金の門』として後の世にも語られることになる。
- b) ブルネレスキは、彫刻をいっさい行わず建築家として名を馳せることになり、フィレンツェの大聖堂のドームをつくる。
- c) 大聖堂のすぐとなりには、ギベルティが手掛けた洗礼堂がある。隣で行われる大工事…ギベルティはどんな気持ちで眺めたであろうか。勝者はいったいどちらだったのだろうか。
- d) ギベルティがコンクールで表した透視図法的表現は、皮肉にもブルネレスキが理論を完成させて、ブルネレスキは透視図法の発明者と言われることになる。
- e) 時代は本格的なルネサンスへ…後の世に、ダビデをつくった巨匠ミケランジェロは、ギベルティのレリーフの門を見上げ、「これこそ、まさに『天国の門』という名にふさわしい門である。」と褒め称える。
- f) 熱きコンクールを繰り返した、ブルネレスキとギベルティ。2人は、まさに芸術家としてそれぞれ満足した一生を過ごしたであろう。
- g) 600年もたって、よその国の子ども達にもう一

度コンクールをしてもらった2人。天国でニコリ私たちを見ている…のかもしれない。

(6) 授業後の感想

以上のような授業を実施した際の、平成16年度3年3組での感想は以下のとおりであった。

- ① ずっとブルネレスキを推した生徒
- a) 2つの絵を見比べることから時代背景などを感じる事ができました。特徴をつかんだりするのが難しかったです。先生の考えを聞いたあとで、構図も評価の中では重要だという事が分かりました。とても楽しい授業でした。
- b) 二人の芸術家が争った事実があると知り、とても驚きました。どちらの作品もすぐれていて、当時の審査員は大変だっただろうなと思いました。でもそういう話し合いに、今日自分も体験できて楽しかったです。
- c) 微妙な違いから判定するのは、むずかしかったけど、おもしろかったです。クラスの中でも意見が分かれたので、審査員の中で分かれるのも当然だと思いました。どちらの作品もリアルですばらしい作品だと思いました。それぞれに良いところがあって、よかったです。
- ② ずっとギベルティを推した生徒
- a) 「開運！ なんでも鑑定団」の「目利き選手権」みたいだった。ギベルティの作品は、顔が美しく、今まさに天使が止めようとしている緊迫した感じが出ている。奥行きがしっかりしていた。今回のような授業はまたしてほしい。
- b) どちらも上手いし、物語の描写もよかったですと思う。だから、どちらになっても誰も不満はなかったのではないかなと思います。人の作品を評価するのはすごくむずかしいのだなあ。と思いました。
- c) 第一印象はAだったけれど、いろんな情報を得て、結果Bがよいと思えるようになった。「見る→知る→考える」の流れはとても大切なのだとわかった。二人の作者はどちらもすばらしい力をもっていたと思うので、コンクールで白黒をつけられ、今後の人生まで揺らがされてしまうなんて、すごくびっくりした。
- ③ ブルネレスキからギベルティに変更した生徒
- a) 最初2つの絵を見たとき、どちらも同じだと思っていましたが、時間をかけて見ると微妙な技術も違うようです。最後の判定では、Bとしましたが、もし当時の審査結果がAだったらAにした

- かもしれません。審査員の苦勞が分かりました。
- b) とてもおもしろかった。他の人の意見を聞いてみると、自分ではBだと思っていたものがAもいいなあとと思うようになった。コンクールでは当時の審査の好みや、習慣なども関わってくるから一つにまとめるのは大変だったと思った。
- c) 二つのあまり差のないような絵を比べてみて、どちらがどういう風に、どこが優れていたのか、テーマ、技術等から見ていろいろ考えなければならなかった。絵を見るときにの観点など、考えさせられた。描くときにも考えようと思う。

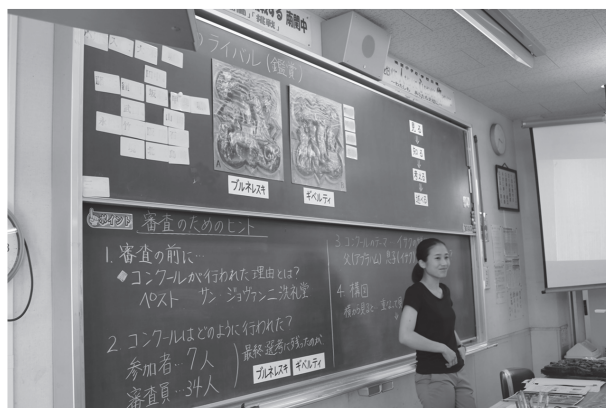


図6 吉田授業

2) 吉田授業

(1) 吉田授業の展開

- ① 二つのレリーフの紹介 5'
- ・ずっと前に実際にあったコンクール
 - ・今日は、君たちで改めての再審査
- ② 各自での初発の評価 5'
- ・審査委員になりきって
 - ・気づきを出し合いながら
- ③ 情報提供 15'
- ・2人の作者名の紹介
 - ・なぜ、コンクールが行われたのか
 - ・コンクールの概要
 - ・作品を奥行きでとらえたら
 - ・観点をもとに評価
 - a: イサクの犠牲のテーマをより表現できていたのはどちらだと感じますか？(動き、人物の表現に着目すると…)
 - b: 構図が格好いいと感じるのはどちらですか？
 - また、どんなところがよいと感じますか？
- ④ 情報を知った上での最終評価 15'
- ・班での話し合い
 - ・自分の意見が変わったら朱書きで変更
- ⑤ 意見発表 5'
- ⑥ 教師の意見、その後の二人について 5'

に加え、解説も含ませ、ブルネレスキとギベルティのレリーフの奥行き構成モデルもイラストで紹介した。

図7-1 吉田シート表

(3) 授業後の感想

- ① ずっとブルネレスキを推した生徒
- a) 私は最初も最終審査もAにしました。絶対にAだと思いました。でも、Bの人の理由を聞いてみると「なるほど」と思うことがたくさんありました。選ばれたのはBだったけど、他の人には、自分が思いつかない考えがたくさんあってすごいと

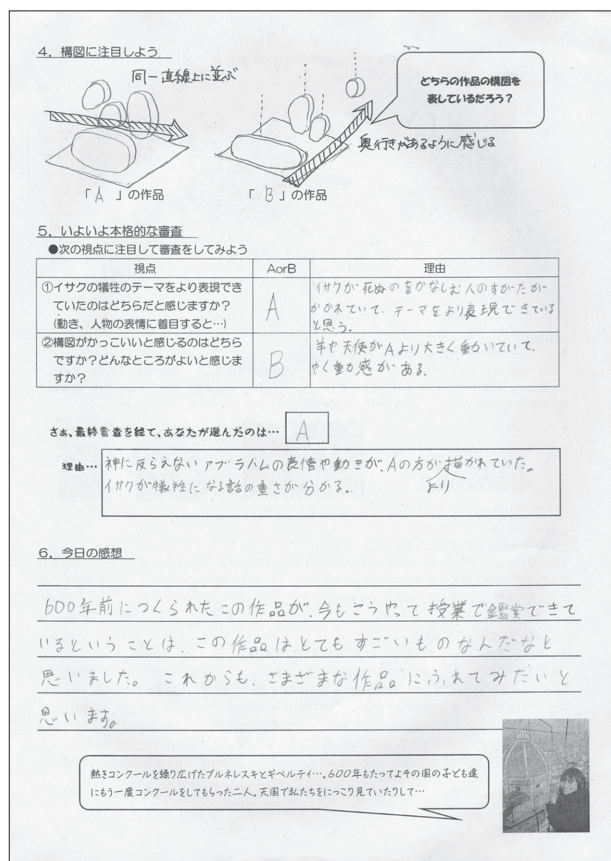


図7-2 吉田シート裏

感じました。

- b) 私は今回初めてのコンクールの審査をやってみて、2つの絵はとても構成が似ていて何を伝えたいかを読み取るのがとても難しかったです。でも、2つの絵の意味を読み取っていくうちに、実際は全然違っていたので驚きました。またいつコンクールの審査を出来るかは分からないけれど、またする機会があったなら、もっと深く読み込んで選択していきたいなと思いました。

② ずっとギベルティを推した生徒

- a) 洗礼堂の扉として使われると聞いて、家にもこんなきれいな飾りがあるならいいなと思いました。…というか逆につくり方を知りたいと思いました。どうしたらこんなに繊細にうまくできるのか知りたいですね。今日はとても楽しかったです。
- b) 当時、34人の審査員がどのような観点で審査をしたのかが気になります。ギベルティの作品は、何が極め付けだったのでしょ。レリーフの鑑賞は初めてとなりました。絵画も彫刻も今回のレリーフも、作者の込めた念は多少違えど想像し、思考を繰り返すことで、より一層見え方が変わるものです。

③ ブルネレスキからギベルティに変更した生徒

- a) 私は今回、同じテーマでも人によって全く違う作品になることが分かった。同じテーマでも構図が違ったりしておもしろかった。1401年のコンクールを今もたくさんの方が知っていてすごいと思った。自分は最初Aを選んでいただけで、最後にはBになったので、作品の意味を知ること、人の考えも変わるんだと思いました。
- b) コンクールで作品を選ぶのは難しいと思いました。テーマにそった絵や自分が格好いいと感じる方を選ぶといいけど、別々だった場合はどちらを選んだらいいのかなと思いました。
- c) 最初パッと見たときは違いがあまり分らなかったけど、どちらが良いかなどじっくり見ていくうちに、それぞれの作品の良さが分かっておもしろかったです。そして、友達が発表する説明が納得することばかりでなるほどと思いました。

3) 緒方高校授業

(1) 緒方高校授業の展開

玉名高校における「一日若駒大学」での授業は、「緒方授業」の展開をもとに行った。

(2) 付属する資料等について

板書は、一枚黒板なのでより簡潔なものとした。また、解説シート、VTR資料については「緒方授業」のものを利用した。なお、学習シートは吉田授業の学習シートをもとに改良したシート(図8)を使用した。筆者指導ゼミの学生が教育実習で考案したもの¹¹⁾である。

(3) 授業後の感想

講義に参加した高校生は、1年生17名、2年生7名の計24名。意見の内容は中学生と似たようなものだったので、ここでは、評価の理由を紹介する。

① ずっとブルネレスキを推した生徒

「迫力とリアル感がある」「立体的で迫力がある」「構図に迫力を感じた」「行動や動作が大きく、テーマにそってて分かりやすい」「さされた後、止めている人の動きがあり、良いと思った」「Bの方が細かいが、扉のレリーフとしてはこちらがふさわしいと思った」「迫力があり分かりやすい」「Aの方がアブラハムやイサクや神が中心だと思える」

② ずっとギベルティを推した生徒

「人の表情がより細かく、そこから悲愴や覚悟がうかがえる」「構図(奥行きなど)が時代を先取りし

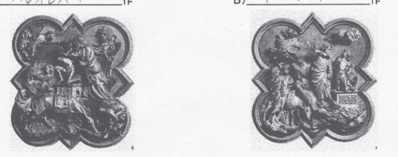
ているから」「構図がきれいだから」「奥行きがあつて1つ1つがきれいに描かれている」

- ③ ブルネレスキからギベルティに変更した生徒
 「奥に奥に奥行きがあつて構図が格好いいと思った」「表情がよく、構図や人物などの配置がよかった」「アブラハムの表情の覚悟を決めた感じと、召使いの構図が好きだから」

授業日 10月 3日

鑑賞「ルネサンスのライバル」
 /年 /組 号 氏名

1 比較しよう！
 A) ブルネレスキ 作 B) ギベルティ 作



特徴 天候がとけて
まどみえる

感想 みんなの
気持ち分かる。

特徴 天候がとけて
少しごちゃごちゃ

感想 2人以外の顔が
まどみえる感じが
よく分かる。

★第一回判定 私は A である。 班としては A である。

2 情報を知ったうえでもう一度！

A) 改めて感じる点
両手でかかっている感じが
評議する点
主人公がよく分かる

B) 改めて感じる点
イヤかっている感じが
評議する点
よくわかる

★第二回判定 私は A である。 班としては A である。

3 最終判定！！
 が、変わった！！
 ★最終の私は... B 理由は... 岩間先生のあぐさの話で、
Bが良かったから。

※授業の感想を書いてください
 岩間先生は資料をいっしょに用意してくれて、分かりやすかった
 です。いっしょにやまされて、頭を使えたので美術が楽しいと思えます
 good!

図8 岩間シート

4 考察

3の実践研究における各授業では、生徒達がどちらの作品を選んだかの変化も記録した。

授業名	作家	初発	最終
緒方授業	ブルネレスキ	34	21
	ギベルティ	7	20
吉田授業	ブルネレスキ	21	14
	ギベルティ	4	11
緒方高校授業	ブルネレスキ	18	13
	ギベルティ	5	10

授業の初発では大きくブルネレスキを推していた生徒達がある程度の知識を獲得した後ではおよそ半々という結果になっている。これは1401年当時と

似たような結果なのかもしれない。当時、市民はコンクールにも参加した。芸術に関する豊かな素養と的確公平な鑑識眼を持つことが市民の重要な素質とされていたのである¹²⁾。知識を持たない初発の生徒達は圧倒的にブルネレスキの迫力を好んだ。しかし、ある程度の知識を有するとギベルティの良さも理解し始めるのである。

授業前と授業後で生徒達は大きく変容した。本授業の価値が明らかになったことを示している。ただし、それでもブルネレスキの迫力には人気がある。それほど2人の作家の技術の巧みさがあつた故であろうが、本授業でも、どちらを選ぼうと自身がしっかりと判断した結果であれば良いとした。要は、自分の判定に自信と根拠を持つことである。

今回の一連の授業実践による子ども達の感想の中には「楽しかった」「おもしろかった」という感想も多かった。その文脈からみて、これは単なる感想の言葉ではない。「審査の体験」の喜び、「大きな葛藤」による決断の喜びがそこにはある。

また、今回の授業実践でも子ども達は自身の意見を述べるとともに自身の想いを確認し合っていた。本教材がコミュニケーションの場をつくり出し、その能力を高めるためにも有効であることは明らかであるが、その他にも感想からは、歴史的事実に基づいていること、優秀な二人のどちらを選んでもいいのではないかということ、さらに鑑賞を深めたいこと、自身の表現に生かしたいことなどが述べられている。そして、多くの子ども達が、審査の難しさを感じ、当時の審査員の労をねぎらっていた。評価する側の気持ちも理解しているのである。

前回の「石庭をつくる」の授業から確認された項目、「① 授業への意欲、② 審美眼の育成、③ 創造と工夫、④ コミュニケーション能力、⑤ 次の鑑賞への自主的発展、⑥ 体験的真實味」は、ここでも十分に達成されたと考える。さらに、「⑦ 制作表現への発展と意欲」を加えることができると考える。

5 おわりに

美術の鑑賞をする時に、よくテーマとか作家の人間性などについて言及するが、音楽でいえばやはりメロディやリズムそして美術でいう素材感としての音色等のようなものが重要ではなからうか、何か心を打つ要素が美術作品にもあるように思う。音楽において、まずは素晴らしい旋律や音色が大切であるように、美術においても感動のきっかけは、匠の成せる技なのかもしれない。これからも実践を踏まえ、さらなる研究に精進したい。

子ども達は真実を求めている。本題材における審査時の表情はその真なるものを表している。

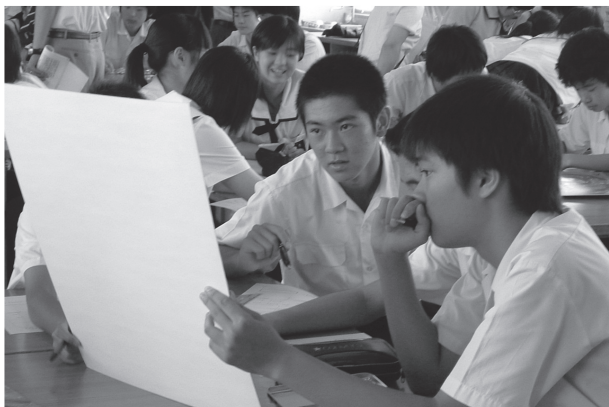


図9 真剣な表情の子ども達

図版典拠

図1・2 『イタリアルネサンスの巨匠たち7 ブルネレスキ』, p.7

※その他図版は、緒方および研究協力者による撮影

注

- 1) 緒方信行, 体験型鑑賞教育の研究—鑑賞授業「石庭をつくる」をもとに—, 2015, 熊本大学教育学部研究紀要, 64, 205-212.
- 2) 緒方信行, 「体験型鑑賞教育の研究—ブルネレスキ作とギベルティ作のレリーフの教材としての価値—」, 2018, 熊本大学教育学部実践研究, 35, 63-70.
- 3) フィリッポ・ブルネレスキ (Filippo Brunelleschi; 1377-1446) イタリアの建築家, 彫刻家. フィレンツェ大聖堂の大円蓋を建築.
- 4) ロレンツォ・ギベルティ (Lorenzo Ghiberti; 1378頃-1455) イタリアの金工家, 建築家, 彫刻家.
- 5) 附属中学校美術科教諭時代の2004年に開発, 実践. 附属中学校は各学年4クラスで1クラスは原則40名.
- 6) 2016年度まで熊本県玉名郡南関町立南関中学校教諭, 美術科教諭. 南関中学校は各学年3クラスで1クラスはおよそ25名.
- 7) 「一日若駒大学」は, 大学教授による出張講義. 1, 2年生を対象に, 学問に対する興味関心を喚起し, 学習や進路への意欲高揚を目的とする. 18講座の中から選択で本講座は24名が受講した.

- 8) 前掲「体験型鑑賞教育の研究—ブルネレスキ作とギベルティ作のレリーフの教材としての価値—」p.64
- 9) 附属中学校美術科教諭時代の2002年に開発, 附属中学校研究発表会にて実践発表.
- 10) 吉川登, 2011, 「行為としての鑑賞」再考—鑑賞学の基礎理論の再検討—, 美術科教育学会誌「美術教育学」, 第32号, 441-452.
- 11) 平成28年9月, 当時学部生4年の岩間美咲希が熊本市立桜木中学校の教育実習で「緒方授業」をもとに実施. 「吉田授業」の学習シートを簡潔にしたシートを考案した.
- 12) 『NHKフィレンツェ・ルネサンス2 美と人間の革新』p.10

参考文献

- ・佐々木英也監修, 1991, NHKフィレンツェ・ルネサンス2 美と人間の革新, 日本放送出版協会.
- ・ジョヴァンニ・ファネッリ, 児嶋由枝訳, 1994, イタリアルネサンスの巨匠たち7 ブルネレスキ, 東京書籍.
- ・後藤茂樹編集, 1975, 世界彫刻全集8 ルネサンス, 小学館.
- ・吉川登, 2011, 「行為としての鑑賞」再考—鑑賞学の基礎理論の再検討—, 美術科教育学会誌「美術教育学」, 第32号, 441-452.
- ・緒方信行, 体験型鑑賞教育の研究—鑑賞授業「石庭をつくる」をもとに—, 2015, 熊本大学教育学部研究紀要, 64, 205-212.
- ・緒方信行, 「体験型鑑賞教育の研究—ブルネレスキ作とギベルティ作のレリーフの教材としての価値—」, 2018, 熊本大学教育学部実践研究, 35, 63-70.

附記

平成28年度の研究協力者として実践授業をしていただいた吉田香寿美教諭, また, 授業実践の場を与えていただいた南関町立南関中学校の多大なるご支援とご協力のご高配には, ここに深く感謝申し上げます.

なお, 本稿は平成27年度科学研究費基盤研究(C)「体験型鑑賞教育プログラムの開発と実践・評価」(課題番号15K04451, 研究代表者: 緒方信行)としての研究成果の一部である.